

2024 年度 JICA ベトナム事業報告

2024 年 10 月 17 日

国際協力機構（JICA）ベトナム事務所長

菅野祐一



みなさま、こんにちは。JICA ベトナム事務所長の菅野です。

2024 年度 JICA ベトナムの事業報告会に参加頂きありがとうございます。私は 1999 年から 2002 年の 3 年間に亘り JICA ベトナム事務所で勤務し、今回は 2 度目の赴任となりますが、事務所長として 1 年半が経ちました。この間、メディアの皆様には様々な JICA 事業を取材頂き、様々な媒体にて発信頂き感謝致します。

昨年 10 月にプレスカンファレンスを開催してからの 1 年間で、JICA は 25 件のプレスリリースを発信しました。特に直近で反響があった中では、8 月のホーチミン・ビンフン下水処理場竣工式、9 月のベトナム株式市場の効率性向上に向けた技術協力プロジェクトの キックオフセミナーでは 70 件を超える記事が確認され、JICA 事業の意義や、何より 日本とベトナムの繋がりについて多くのベトナム市民の目に触れるきっかけを作って頂き、感謝致します。Facebook では昨年 1 年間で 164 件の投稿、累計 10 万を超えるリーチがありました。

ご存じの通り、昨年 2023 年は日越外交関係樹立 50 周年の節目の年であり、11 月の国家 主席訪日時には、「アジアと世界における平和と繁栄のための包括的戦略的パートナーシップ」への格上げが両国首脳にて確認されました。

そうした外交レベルでの友好関係を基盤とし、JICA はベトナムの足許での経済発展を 後押しするため、事業実施に邁進してきました。日本の会計年度である昨年 4 月から本年 3 月までの 1 年間においては、有償資金協力は 2017 年以来 6 年ぶりの高水準である承諾額 1,022 億円（海外投融資を除く）、技術協力は同年度全世界で最大規模となる執行額 52 億円、無償資金協力は承諾額 11 億円となり、コロナ渦から立ち直り着実な経済発展を目指すベトナムへの迅速な経済支援、中長期的な経済基盤となるインフラや人材育成等の両面 から貢献することができたと考えます。日本市民や企業も堅調な成長を続けるベトナムに引き続き強い関心を示しており、中小企業 SDGs ビジネス事業実施数 36 件、草の根技術 協力事業実施数 24 件は、JICA が事業を展開する国において世界一、海外協力隊派遣数 45 名、海外投融資累計承諾件数 9 件は世界二位の水準となっています。

個別の案件実施においては、JICA は 3 つの重点分野を設けております。お手元の achievement paper は同重点分野に沿って、過去 1 年の主だった成果を記載しています。いくつか特筆すべき事業をご紹介します。今後の事業予定について本日よりご紹介します。

まず「質の高い成長」では、ホーチミンにて有償資金協力により整備した、ベトナム最大規模を誇るビンフン下水処理場の完工式が 8 月に開かれ、市民にとって身近な問題である水質汚濁の改善が期待されます。同じくハノイで最大規模のエンサ下水処理場の整備も進めており、近く運転が開始されるよう準備が進められています。また、皆様の関心が高いホーチミンメトロ 1 号線は、既に試運転も開始されており、早期の開業に向けてホーチミン市が準備を進めています。近く、市民の皆様の重要な「足」として車両が活躍し、渋滞緩和による炭素排出量軽減にも貢献できる日を我々も待ち遠しく思っています。

次に「脆弱性への対応」では、まず、先日北部地域に上陸し、甚大な人的・物的被害をもたらした台風に関し、農業農村開発省に派遣されている防災アドバイザーとも協力し、越政府からの要請に迅速に応え、台風上陸から 8 日後に被害の大きかったイエンバイ省に緊急物資として 2000 世帯分の浄水器とプラスチックシートを供与しました。また北部地域での土砂災害対策に資する技術協力の中で、土砂災害リスク軽減のためのベトナム初の砂防ダムをソンラ省で 9 月から建設中、またソンラ省で策定中の土砂災害リスク軽減計画を先日の台風の被害の特に大きかった地域に策定展開することも視野に入れ、「より良い復興 (Build Back Better)」を目指し、災害により経済成長が停滞しないよう協力を進めていきます。

農業分野では、円借款により支援していたゲアン省北部灌漑システム改善事業の落成式が 3 月にあり、灌漑面積の増加により、農村住民の生計向上を後押ししていきます。また、今般の台風被害を受けた北部地域で実施中の安全作物バリューチェーン強化を目指す技術協力では、まずは被害を受けた農家の早期復旧と今後の営農継続を目指した緊急的な支援も視野に、柔軟に現地ニーズに寄り添えるよう対応していきます。

保健医療分野では、新しい取り組みとして、遠隔地の医療改善のための人材育成を進める技術協力を開始したほか、ベトナムで感染が多くみられるウイルス性肝炎の予防・対策を目的とする技術協力プロジェクトの立ち上げ準備を行っています。また 5 月には、高まっているがん疾患の診断・治療に対する需要に貢献するため、国立がん病院への医療機材整備にかかる無償資金協力の贈与契約が交わされ、準備を進めていきます。

最後に「人材育成への貢献」です。今年 2024 年は、日越大学創立 10 周年の節目の年となります。先日 12 日には、10 周年記念イベントがホアラックキャンパスで開催され、交流イベントやシンポジウムに多くの参加者が集まりました。今年の 7 月には初めて学部卒業生 32 名を輩出し、現在、学生は修士学部あわせて 1,110 名 (9/6 時点) となりました。また、日本研究のすそ野を広げる JICA チェアでは、ベトナム社会科学院 (VASS) と連携し、日越関係史を概観する学部生向けの教材の作成中であり、近く出版のご報告ができるかと思えます。

以上、主だった成果と今後の予定をご説明させて頂きましたが、本日時間の関係から触れられないもの、また明確に時期が確定していないものもございますので、弊事務所広報班が窓口となって引き続き密に皆様に情報共有させて頂きます。昨年は日越外交関係樹立から 50 年でしたが、今年は次の 50 年間の始まりの年として日越関係も更に堅固なものにしていくべく、事業を推進していく所存ですので、メディアに皆様にも引き続きご理解・ご協力頂ければ幸いです。改めまして、本日は JICA ベトナム事業報告会にご参加頂きありがとうございました。

以上